

どう学ぶ?

実技中心のカリキュラムで
高いリペア技術をマスター

国立音楽院の管楽器リペア科で学ぶ。管楽器の構造や工具などの知識を習得し、同時に実践を通じてスキルを身につける。管楽器リペアに関する授業のほか、楽器演奏の実技レッスンも受けられる。2年本科のほか、1年コースもあり。

どう稼ぐ?

メーカーや楽器店への就職、
工房を開いて独立などさまざま

資格取得後は、楽器メーカーや楽器店、音楽工房などで活躍することができる。管楽器リペア工房を立ち上げるなど、独立開業をめざすことも可能。個人の修理依頼に対応するほか、中学校や高校などと連携して吹奏楽部をサポートする場合もある。

**ニュース
&
TOPICS**

サクソフーンやトランペットをはじめ、管楽器の調整や修理を行うプロとしてのスキルを証明する資格。デリケートで奥深い管楽器の修理には専門のスキルが求められるため、音楽愛好家を陰で支える貴重な技術者として活躍できる。独立して、工房をオープンすることも可能。全国的にニーズがあり、自分次第で活動の場を広げていくことができる。

国立音楽院認定 管楽器リペア技術師

「楽器のお医者さん」として、
活躍するための技術が身につく資格。
社会人になってから、
再び音楽の道をめざすことも可能です

演奏家にならなくても、
音楽業界で活躍できる。
だから、この世界へ



ドライバーや木製ハンガー、ニッパーをはじめ、仕事で使用する道具は数えられないほど。管楽器のトーンホールをふさぐ「タンポ」の調整時には、火を使うこともある。

きっかけは、サクソフーンだった。テレビに映るサクソフーンプレイヤーの演奏に魅了された春山さんは、高校入学後に吹奏楽部の門を叩く。「結局、担当はフルートだったので、顧問との出会いがその後の人生を決めました。楽器を修理する仕事の存在を覚えてもらっただけです」

健康上の理由で退職。春山さんが元気な体を取り戻したときには、24歳になっていた。「2年間のブランクがあったため、もう一度技術を勉強し直そうと国立音楽院に入学しました」生徒は春山さんのような経験者や高校を出てすぐの若者ばかりかと思いきや、実際はそうではなかった。「音楽とは関係のない職種の方も、たくさんいました。社会人になってから音楽の道をめざす方にとって、この資格は有効なのです」

この資格が、
かつての憧れの楽器と
春山さんを結びつけた

春山さんの今の職場は、2年間通ったスクール内にある工房だ。「私の担当は、周辺の小学校、中学校、高校。個人のお客様と違って楽器の数が多く、一度に10以上の楽器をお預かりすることもありますよ」歪みを直したり、パーツを再調整



春山悠司さん(26歳)

楽器店での販売や修理の仕事を経て、国立音楽院の管楽器リペア科で2年間学ぶ。現在は、スクール内にある「KMA楽器リペア工房」に勤務。

したり、楽器のお医者さん」として活躍する春山さん。ちょっとした不具合なら、持ち帰らずに現場で修理をしようというところもある。「直った楽器を手にしたときの、生徒さんの喜ぶ顔が見られるのがうれしくて。たくさん笑顔のために、もっと腕を磨いていきたいですね」修理や再調整を担当する楽器のなかには、かつての憧れの楽器も含まれているという。管楽器リペア技術師という資格が、サクソフーンと春山さんを再び結びつけた。

反応がダイレクトに返ってくる。
それが、この仕事の醍醐味。
直せる楽器が増えていくことで、
より多くの笑顔に出会えます。

主催団体

国立音楽院

受験資格

国立音楽院の所定コースを学び、カリキュラムを修了すると資格が取得できる

目安となる取得期間

1年～2年